

南高 ほけんだより

発行 令和4年12月20日（臨時コロナ対策号）

まもなく冬休み。今冬は新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行が心配されています。同時流行は、医療機関のひっ迫や抗原検査キットの不足に伴う確定診断の遅れなど、さまざまな可能性が考えられます。

また、家族や友人と会う機会がふえる時期ですが、その分「感染リスクが高まる」ということもいえます。生徒のみなさんは今一度コロナ感染症対策について徹底をお願いします。

なぜ今冬は同時流行するのか ～ウイルス干渉とは～

- ・ウイルス干渉とは、「あるウイルスが流行すると他のウイルスは流行しない」というもので、ウイルス同士で宿主の奪い合いをして勝ち負けが出ているような状況のことをいいます。過去2年間は、新型コロナウイルスが世界中で大流行したため、インフルエンザウイルスは宿主（人間）を奪われた状態になっていましたが、コロナの流行が落ち着いてきたころに再び宿主を見つけたインフルエンザが流行する可能性があります。

本校の状況

- ・本校では保健室来室者に対して、発熱がなくても軽微な症状がある場合は、集団に戻さず早退への御協力をお願いしています。

一例ですが、保健室来室時には、体温36℃台でのど痛程度でしたが、早退後にPCR検査を受けたところ陽性だったケースや、月経痛で来室し体温が36℃台だったため鎮痛剤を服用させましたが、1時間後には37℃台の発熱となったケースなど、非常に判断が難しいものが増えてきています。

保護者のみなさまには、早退時の迎えや受診等で大変お手数をおかけしますが、何卒御協力いただきますようお願いいたします。

学校等で感染が拡大したと考えられる事案で確認された感染リスクの高い行動等

(青森県教育庁担当課公表)

- ・ 軽微な症状があったが登校し、活動をした。
- ・ 適切な距離をとらずに、マスクを着用しないで会話をした（昼食時・着替え・部活動）。
- ・ マスクを着用していたが、公共交通機関内で15分以上、近距離で会話をした。
- ・ マスクを着用していたが、学校行事で準備のため、放課後、近距離で会話をしながら作業をした。
- ・ 遠征等のバス内で飲食をした（マイクロバスのため換気が不十分だった）。
- ・ 部活動の際、雨天のため廊下で集団によるランニングを行った。
- ・ 部活動の際、CO2 モニターは設置していたが換気状態の確認を行っていない。
- ・ 多人数で会食をした。

今秋以降の感染防止対策

今秋以降の感染はこれまでを上回る感染者数が生じることもあり得ます。また季節性インフルエンザの同時流行も懸念されています。しかし、新たな行動制限は行わず、社会経済活動を維持しながら感染拡大防止策を講じなければなりません。

(1) 医療体制の機能維持・確保

- ・ 重症化リスクが低い人は、受診する前に自宅で検査キットによるセルフチェックを行い、陽性の場合は健康フォローアップセンターに登録する。
- ・ 救急外来及び救急車利用は真に必要な場合に限ることとし、専門の WEB サイトや電話相談窓口を利用する。

(2) 感染拡大防止措置

- ・ 基本的な感染対策の再徹底（3つの密の回避・手指衛生・換気）
- ・ 感染者との接触があった場合は早期に検査を行う。・・・（1）参照
また、年末年始の帰省や旅行等で、高齢者や基礎疾患のある人と接する場合には事前の検査を行う。
- ・ 混雑した場所や感染リスクの高い場所への外出など、感染拡大につながる行動を控える。特に大人数の会食や大規模なイベントの参加は見合わせる事も含めて慎重に検討判断する。大声の回避・会話時のマスク着用。
- ・ 普段と異なる症状がある場合には、外出・登校等を控える。

参考

- ・ 「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策の徹底について」：青森県教育庁スポーツ健康課通知 令和4年11月1日付け
- ・ 「今秋以降の感染拡大で保健医療への負荷が高まった場合に想定される対応」：新型コロナウイルス感染症対策分科会 令和4年11月11日付け